

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272700566		
法人名	医療法人社団 千葉医心会		
事業所名	グループホーム じょんから		
所在地	千葉県我孫子市布佐3078-9		
自己評価作成日	令和2年11月11日	評価結果市町村受理日	令和3年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602
訪問調査日	令和3年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できる限り入居者様に楽しんで生活していただけるように、感染症対策を行いながら、行事やレクリエーションに力を入れています。年間行事が全て同じ内容にならないように見直し、趣向凝らして少しでも違う雰囲気のある行事になるよう心掛けています。年間行事だけではなく誕生日にお祝いの会を開催したり、毎日レクリエーションの時間を設けて楽しんでいただいています。毎日の食事に関してはおいしい食事が提供できるよう食品納入業者と連携をとっております。入居者様のその時々体調や症状にあった形態の食事を考え提供し、嗜好に合わせて臨機応変にメニューを変更するようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1. JR成田線布佐駅から徒歩8分の、我孫子市郊外の住宅街に立地した2階建てホームです。近くにスーパー、薬局もあり、訪問や生活に便利で、地域交流が盛ん(現在はコロナ禍で中止中)です。
 2. 職員は、家庭的な雰囲気の中、利用者寄りサービス提供に努め、コロナ禍の中、条件付きで家族面会を認めたり、お便りを送る等、家族アンケートでも「柔軟に対応している」と好評です。
 3. 本部が系列病院2カ所を有する老人保健施設で、月2回の内科医訪問診療と24時間対応、非常勤看護師(元施設長)による週2回の健康チェックと、健康管理体制が整っています。利用者平均年齢85.9歳(90歳超5名)ですが、平均介護度1.8と低く、利用期間10年を超える人が1名いる等、利用者は比較的元気に穏やかに過ごしています。今年は家族の要望に応じて1名看取り、感謝されています。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地元の方々と交流を持ちながら、明るい家庭的な雰囲気を目指すという運営理念を掲げ、実践できるように努めています。	地域密着を織り込んだ理念をパンフレットに記載し、玄関やホーム内に掲示しています。職員は毎月の職員会議時に確認し、日頃のサービスで実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板を回し挨拶を交わしています。今年はコロナ禍で中止となりましたが、地域のお祭りの休憩所として駐車場を開放し、かき氷やポップコーン、おでんを提供し交流を深めています。	地域の祭りに駐車場を休憩所として開放、町内会長・民生委員が運営推進会議に参加、ボランティア受け入れ、教会からクリスマスキャロルが来訪、等地域交流が活発ですが、現在はコロナ禍の為活動を止めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	布佐地区社会福祉協議会の委員となり、月1回の会議に参加し、グループホームの理解を求めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での報告や意見をいただき、職員会議での議題提供にて話し合い、サービスの向上に生かせるよう努めています。	市又は地域包括、町内会長、民生委員、家族、理事長、本部施設長、管理者(2名)で偶数月に開催、概況・活動報告、個別ケア等を取り上げ意見交換していましたが、現在はコロナ禍の為書類送付で実施しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話やメールでのやり取りが主ではありませんが、諸手続き等は役所に赴き、担当者からアドバイスをいただいています。その他運営推進会議にも出席していただいているので、意見交流に努めています。	従来は管理者が市担当に必要な都度訪問し、報告・説明していましたが、現在は電話・メールで行っています。行政関係機関からの取扱困難な人の受入れ要請には、空室があれば積極的に対応の方針です。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を立ち上げ、職員会議にて入居者の現状について検討し、記録をしています。施錠については玄関の戸締り以外はしていませんが、2階出入り口は安全を重視し行っています。	身体拘束委員会を毎月職員会議時に開催し、具体的な禁止11項目等の職員への周知徹底を図っています。昼間は玄関の施錠はしていません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的な虐待だけではなく、言葉による虐待もないように心掛けています。日頃から、トイレ誘導、入浴、更衣時等に身体の観察を行い、報告をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会を開いて理解の場を持ち、関係機関との連絡体制をとっています。(入居者1名成年後見人がついている)		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込み時、空室発生時、契約時に十分な説明を行い、理解、納得していただけるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置していますが、ご利用はほとんどありません。面会時やお電話等で意見やご要望をお聞きしています。また、意見を言いやすい環境作りに努め、その都度状況説明を行っています。	利用者からは日ごろ、家族からは家族の訪問時、運営推進会議時、電話連絡時に意見・要望を聞いて運営に反映させています。コロナ禍の中の面談要望には条件付き(時間、場所、方法)で応えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や、毎月の職員会議時に意見を出し合っている。今年はコロナ禍で難しいですが、定期的に親睦会を開き屈託のない意見を述べられるようにしている。	管理者は、申し送り時や毎月の職員会議時に職員の意見を聞き、運営に反映させています。定期的に親睦会(新宴会、忘年会)を行い、職員間の意思疎通が容易となる環境作りをしています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当を取り入れ職員の意欲向上につながるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護職員1名、就労しながら准看護師資格取得のため通学中。 介護職員1名、実務者研修受講中です。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2ヶ月に1回、関連施設の6つのグループの管理者会議を開き、課題を決め意見交換を行っています。また、3ヶ月に1回、市のグループホーム分科会の勉強会に参加し、交流を図っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	信頼関係を築くことが大切なことを日々職員全員に説明、理解し笑顔でケアをするよう心掛けてもらっています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者様同様に、信頼関係を築くことが大切であることを職員全員に理解してもらい、丁寧に接するよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状況を日々観察し、その時々で必要な支援を見極め、ご家族と話し合い対応できるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人のできる事を見極め、洗濯物たたみや食器拭き、掃除等のお手伝いを行ってもらっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時等に一緒にお話しをしたり、居室担当者からの要望等をお話しし、ご家族と協力して入居者様を支えていけるよう心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の友人の来訪に関しては暖かく見守り、協力体制をとっています。かかりつけの病院の通院等も行っています。	ここ1年間は面会制限を強化し、予約制にして玄関先や窓越しの対応として、月4名程(10～30分以内)の家族が来ています。家族への連携継続の為に利用者の様子が分かる「お便り」を月1回郵送しています。携帯電話で会話を交わすことが出来る人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格を把握して入居者同士の相性等を考慮したうえで、食堂の席を決めています。職員が仲介の立場になって支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も相談にのるケースが増えていきます。関連施設に移動された方やご家族からの相談を受けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や施設生活に慣れてきた時など、時間を設け、色々な状況を把握し、できる限りご本人の意向を取り入れられるよう心掛けています。	職員は、直接介護時に聴きとれた利用者の思いを実現させています。利用者の希望は主に、食べ物や体温調節、帰宅願望等ですが、可能な範囲で満足な支援となるように努めています。利用者の思いを汲み買物代行することもあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族から話を聞き、情報を得ています。極端に環境が変化しないよう、なじみの物や家具を自室においていただくようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態、様子観察等を行い、心身状態の変化の把握に努め、ケース記録や連絡帳に記載し共有を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族、居室担当者、介護支援専門員等と話しをし、意見を反映させて計画書を作成しています。また、計画書やモニタリング等は職員も把握できるようケース記録にファイリングしています。	利用者の記録や各関係者の意見をもとに介護計画を作成して家族の同意を得ています。年1回更新し、半年毎、3か月毎、特変時に長期・短期計画を見直し、計画変更、または計画続行を確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子をケース記録に記入し介護計画に生かせるよう努めています。また、職員会議等で入居者状況を話し合い、実践できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の要望があれば整体院への通院対応を行っていたこともあります。今後も連携を取りながら対応をしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議における民生委員や地区の相談室からや、社会福祉協議会会議における催し物等の情報により支援体制を検討し参加を促している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を尊重し、整形外科、内科、歯科、眼科等の受診をしています。	内科医(月2回)、歯科医の訪問診療契約により、利用者の体調管理、健康管理を日々支援しています。整形外科や眼科など他科受診、通院が必要な場合は職員が同行受診支援(年間5~6人)をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態把握に努め、常に看護師と連携をとり、相談や看護支援を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携医療機関とは、入院先のケースワーカーと連絡を密にとり、情報交換を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に合わせて随時ご家族や主治医、看護師と連携を図り、その時の状態にあった支援ができるよう努めています。ターミナルケアの同意書を取っている方もいます。ターミナルケアの学習会も行っています。	利用者が希望する範囲で看取り支援できるように介護技術向上の為の職員研修を定期的に行っています。昨年は一人の看取り支援を行っています。救急搬送や連携施設への移行など選択範囲を広げて利用者の希望を受け入れ、支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会等で学び、緊急時にも対応できるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	個々にあった誘導の仕方、防災頭巾の着用等年2回避難訓練を行っています。防災設備の定期点検、食料の備蓄を行っています。隣のスーパーや薬局へは報告のみ行っています。	コロナ禍の為消防署からの立ち合いは無く、11月に自主訓練を実施済みで、3月に再度訓練実施を検討中です。4日分の食料品を備蓄し、緊急時に職員約9名が駆けつける体制を築いており、長期停電の際は本部の老人保健施設への疎開も考えています。	年1回防災頭巾・ヘルメットを着用の上垂直避難する災害訓練の実施、備蓄の数量と内容の見直し、電源確保、および、数年に1度程度疎開先迄の実地訓練を行うこと元望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様の 人格 を尊重したケア、言葉かけができるよう努めており、職員には個別指導を行っています。	接遇に関する職員の自覚を促す為に、「日頃から気をつけよう、正しい日本語、優しい言葉遣い」という標語を掲げて利用者を尊重し、温かい支援ができるように職員間で共有しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人から思いや希望が表せない方もいらっしゃるが、声掛けを行い、表情や仕草から察知するよう、また、できるよう努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールは決まっているが、無理強いする事なく、新聞を読んだり、パズルやトランプボール遊び、テレビ鑑賞等で楽しめるような支援ができるようになっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族にも協力していただき、ご本人の意向をできるだけ尊重した支援を心掛けています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器拭きやテーブル拭き等できる事を手伝っていただきながら、その人の意欲を引き出しています。職員も一緒に食事をとり、楽しい雰囲気の中食べられるように努めています。	食材業者を、月間メニューに合わせた半調理済み食材の供給業者に変更し、調理時間短縮が叶いました。半介助者は2人、ほぼ全員が箸を使えます。形態別食は職員が手を加えて提供し、音楽を添えて皆で食卓を囲むひと時を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量摂取量チェック表にて、毎日の食事、水分摂取量を把握し、栄養補助剤の投与や夜間の水分確保に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を学習会で学び、毎食後のうがい、歯磨き、義歯洗浄等個々に応じた口腔ケアの実践を行っています。訪問歯科診療も始まり、職員の指導も受けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表や申し送り等で情報を共有し、職員がその人の排泄パターンを把握し、適切な支援ができるよう努めています。	排泄チェック表を把握しながら、2～3時間ごとに各利用者の排泄を促す支援をしています。トイレ誘導を拒否する利用者（一人程）や失禁者も職員の支援を受け入れ、清潔保持が保たれるようにしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無を必ず確認し、排泄チェック表を利用して皆が把握し、便秘傾向のある方は医師や看護師、管理者に相談しながら支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	生活時間帯の関係上、基本的には入浴時間は決まっているが、入浴の希望があれば添えるようにしたり、入浴のタイミングや入浴剤の使用など、入浴が楽しめるよう支援しています。	利用者一人約30分、週2回の入浴支援をしています。他の日は人によって清拭等を行っています。利用者によっては2～3人の職員が入浴支援に入ることがあります。柚子湯なども行い、各自の肌荒れを予防する保湿ケアを継続しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	可能な限りその人のペースに合わせ、否定せず支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者情報、薬箱に薬名、効用を記載し把握に努めています。薬をセットして内服するまでの間に職員2名でダブルチェックを行います。食前薬や食後薬を声を出して確認し、投与しています。症状の変化も観察して報告しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時や入居者情報作成時、またその後もご家族から情報をいただき、その人に合った支援ができるよう皆で共有しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	行事等で定期的な外出できる機会が持てるよう支援しています。また、天気の良い日は散歩や日光浴を行い、個別でのドライブなど外にできる機会を作るよう心掛けています。	希望者は週1回ほど玄関先に出て外気浴しています。また、ガラス越しの日向ぼっこで3～4人が談笑することもあります。外出制限下では、パズルやぬり絵、体操、室内歩行などで日中を過ごしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時にご家族に理解を求め、それぞれの能力に応じた支援をするよう心掛けています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があったときは随時対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く落ち着いて過ごす事ができるように、気温や湿度管理、定期的な清掃を行っています。また、季節感のある花を置いたりして工夫しています。	リビング兼食堂は、明るく、清潔で、ゆったりしており、利用者が居心地よく、過ごせる様になっています。特にコロナウイルス対策として、毎日掃除を2回、消毒を3回行っています。巣ごもりになってしまうので、毎日の体操、パズル(カラオケは中止)等、工夫して過ごす様にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペース、リビングソファ、ウッドデッキ、庭等があり、基本的には自由に使用できるようになっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を用意していただくようご家族にお願いしている。それぞれ工夫されて生活されています。	居室はエアコン、広いクローゼット、洗面台が備え付けで、清潔で適度の広さもあり、利用者が快適に過ごせる様に配慮されています。居室担当が決められ、時節柄換気やエアコン・加湿器の掃除に注力しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援の考え方を大切に、トイレの位置や使用の仕方を何回も教えて体得されています。歩行時も環境整備を考え、手すりを使用していただきながら見守りを行っています。		